

授業科目名： **テクノロジマネジメント**
科目区分： 経営数理・問題解決（コア）
必修・選択の別： 選択
配当年次： 1・2 年次
単位数： 2 単位（学習期間 1 学期）
担当教員： 藤原 洋
オフィスアワー（授業相談の受付）：

eラーニングサイトおよびメールでの質疑応答を受け付けています。
（メールアドレスは大学院グループウェアのアドレス帳でご確認ください）

1. 授業の概要

インターネットの本格的普及から 20 年を経過した今日、企業の技術経営環境は、大きく変化した。本講義では、インターネットの発展とこれによって起こった社会およびビジネス環境の変化、この結果起こっている技術経営環境について述べる。その後、各産業分野および大企業とベンチャー企業において、質的・量的に異なる技術経営戦略の相違について触れ、現在必要となっている技術経営戦略とその実戦的手法（企業間・産業官連携や資金調達戦略、人材開発等）について述べる。

2. 学習目標

社会を変えるのはテクノロジーであるという歴史観と、企業にとっての真の競争力の源泉は技術経営戦略にあるという価値認識が重要である。そこで、次の時代を読むには、技術革新の本質を理解し的確な技術経営戦略を立案し、これを実践することが求められる。本講義では、技術革新がもたらす産業構造の変化に対応可能な技術経営の習得を学習目標とする。

3. 授業計画

第 1 章

・MOT とは？ ～MOT の過去・現在・未来～

MOT とは？ MOT の歴史、現在の MOT、これからの MOT について概観する。

第 2 章

・MOT の社会構造的アプローチ

MOT の対象となる企業群からなる社会構造、MOT と産業革命とイノベーションの関係、MOT とデジタル情報革命の関係、MOT が解決すべき今日的課題について述べる。

第 3 章

・社会インフラ・サービス企業の MOT

社会インフラ・サービス企業とは？ 社会インフラ・サービス企業にとっての MOT（例として通信事業におけるイノベーションを取り上げる）、社会インフラ・サービス企業にとっての MOT（例として電力事業におけるイノベーションを取り上げる）について考察する。

第 4 章

・社会インフラ構築企業の MOT とイノベーション戦略

社会インフラ構築企業とは？ 社会インフラ構築企業にとっての MOT、MOT とイノベーション戦略についてその概要を述べる。

第 5 章

・B2B サービス企業の MOT

B2B サービス企業とは？ B2B サービス企業にとっての MOT とは？ B2B サービス企業にとっての MOT の具体策について述べる。

第 6 章

・B2C サービス企業の MOT

B2C サービス企業とは？ B2C サービス企業にとっての MOT とは？ B2C サービス企業にとっての MOT の具体策について述べる。

第 7 章

・B2B 製造業の MOT その 1

B2B 製造業とは？ B2B 製造業にとっての MOT とは？ B2B 製造業にとっての MOT の具体策について述べる。

第 8 章

・B2B 製造業の MOT その 2

B2B 製造業について具体的に理解するために、ケーススタディ 1、B2B 製造業のケーススタディ 2、B2B 製造業のケーススタディ 3 の 3 つの例について考察する。

第 9 章

・B2C 製造業の MOT

B2C 製造業とは？ B2C 製造業にとっての MOT、B2C 製造業にとっての MOT の具体策について述べる。

第 10 章

・MOT と企業間連携

中小企業間連携の実施状況の調査に基づき、中小企業間連携のヒアリング結果、企業間連携のマネジメント分析と実践的工夫について触れる。

第 11 章

・MOT と産学官連携

国家レベルでのイノベーション戦略、産学連携とは？ 産学連携による事業創造について述べる。

第 12 章

・MOT と国際連携

グローバル企業のための技術経営、グローバル技術経営の方法論、グローバル経営戦略と R&D 戦略について概観する。

第 13 章

・MOT と知的財産戦略

技術経営における知的財産の創造と保護、技術経営における知的財産の活用、技術経営における知的財産戦略と法務について述べる。

第 14 章

・MOT と資金調達戦略

投資意思決定とは？ 投資意思決定のための定量評価法、研究開発における成果把握について述べる。

第 15 章

・MOT のための人材開発

最終章として MOT の鍵を握る MOT 人材の必要性、MOT 人材による貢献と実践、MOT 人材の戦略業務と育成について述べる。

4. 受講上の留意点

大学の既定のスケジュール通りに遅延なく受講してください。

5. 成績評価基準

出席率（10%）＋各章小テスト（10%）＋期末試験（50%）＋期末レポート（30%）

6. 必読書籍

特にありません。

7. 参考書籍

毎回講義の際に準備される専用教材

8. その他

特にありません。